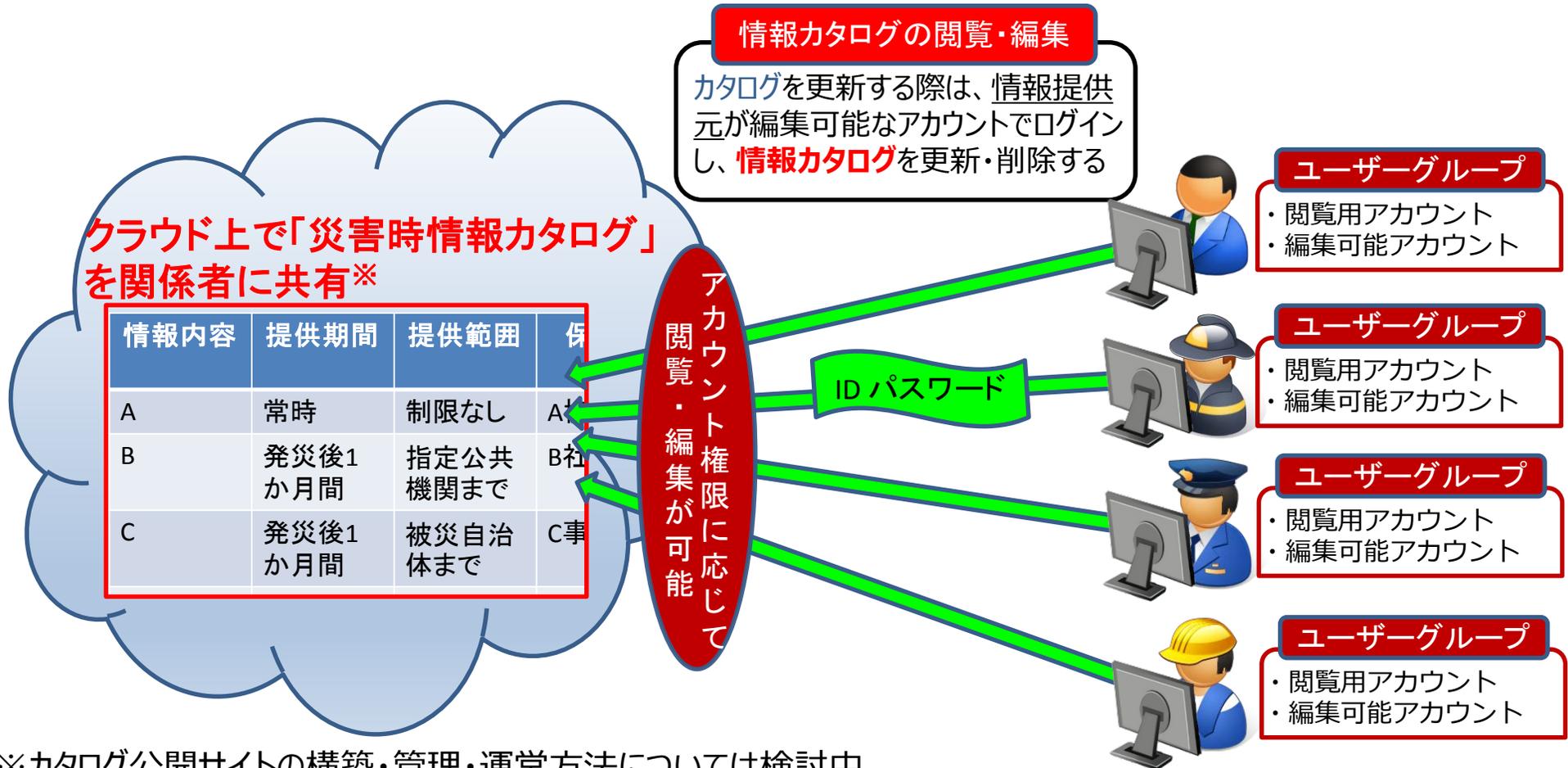


## **資料 2**

### **現在の取組状況**

# 「災害時情報カタログ」の共有方法に係る検討状況 【資料2】

- クラウドを利用した情報カタログ共有データベースサイトを開設することを想定
- 府省庁、地方公共団体、民間事業者・団体毎に、情報種別単位でアカウントを管理し、閲覧許可を設定
- 閲覧とは別に、編集可能権限を持つアカウントを設定、直接情報カタログの編集（更新・削除・登録）が可能



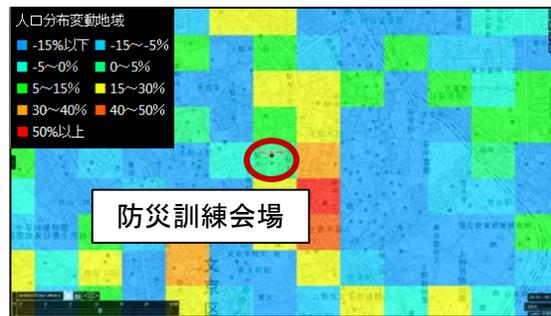
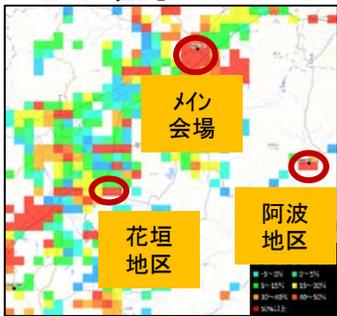
※カタログ公開サイトの構築・管理・運営方法については検討中

## ■取組内容

昨年度の課題の解決に向けて、今年度は4GデータやGPS位置情報を用いた検討を試みる。これにより、メッシュ毎の滞在人口やメッシュ内の人口分布が詳細に把握可能となる。

## ■昨年度の成果

- 平時の人口増減の比較的少ない地域では、数百人規模の人口増減を把握できる感度であることを確認。
- 人口増減が激しい地域は、数百人規模の人口増減は平時の増減に埋没し、指定外避難所候補の抽出は困難であることを確認。



・三重県では指定外避難所候補となるメッシュを複数抽出（要スクリーニング）

・文京区では指定外避難所候補の抽出が困難

## ■今後の予定

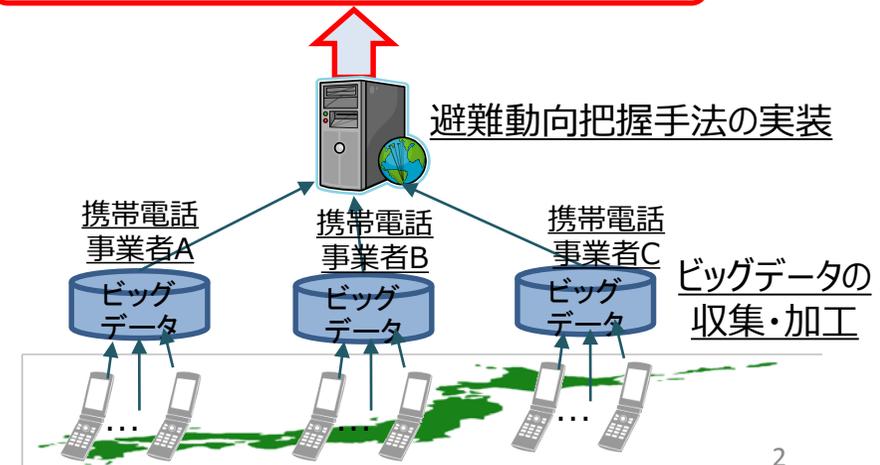
- 携帯電話位置情報以外のビッグデータ（GPS情報等）への対象拡大
- スクリーニング手法の検討

## ■運用上の課題

○技術の活用主体や、活用に当たっての留意点等

- 災害時に携帯電話事業者が基地局情報やGPS情報等のビッグデータを収集・加工して配信するために必要なシステム構築と運用
- 被災者の避難動向把握手法を実装するためのシステム構築と運用
- 個人情報等関係法令との整合性

## 被災者の避難動向の提供



### 取組内容

昨年度、作業部会において決定した、施設に関する静的情報項目について、地方公共団体に対して施設情報の整理の働きかけを実施するとともに、動的情報項目（開設フラグ等）の充実に検討する。

### 整理項目

#### 指定避難所

##### 【静的情報項目】

※	基本情報	自治体名称（都道府県名＋市区町村名） ID①（都道府県コード＋市区町村コード） ID②（避難所の通し番号） 公開許可フラグ（全体）
※	施設情報	施設名称 施設名称（ひらがな） 公開許可フラグ（電話番号） 電話番号 公開許可フラグ（住所、緯度、経度） 住所 緯度 経度
※	施設の様態	公開許可フラグ（進入可能な車両の大きさ） 進入可能な車両の大きさ 公開許可フラグ（想定収容人数） 想定収容人数
※	作成日	
※	更新日	
	【動的情報項目】	
		開設フラグ
		開設フラグ更新日時

自治体が入力する項目

自治体以外の団体により補完が可能な項目

※は現状の報告様式にて自治体に記載いただいている項目

#### 物資集積拠点

管理する自治体	コード 都道府県名 市区町村名 連絡先 電話番号 FAX
基本情報	施設名称 所有者（管理者） 連絡先 電話番号 FAX 施設の分類 発災時の運営者 連絡先 電話番号 FAX 地域防災計画掲載の有無 広域物資輸送拠点・地域内輸送拠点の分類 支援想定地域
位置情報等	郵便番号 所在地 緯度 経度 隣接・近接する自衛隊基地、飛行場等の情報
施設の様態	屋根（雨天対応可否） 階数 耐震性 床の強度（フォークリフト使用可否） 稼働可能時間（発災時） 敷地へのトラック進入可否（最大車種） 施設へのトラック接車可否（最大車種） トラック待機スペース 面積（㎡） 大型車換算（台） 中型車換算（台） 温度管理設備（冷凍・冷蔵）

施設の規模	敷地面積（㎡） 施設全体の床面積（㎡） 荷捌きスペースの広さ（㎡） 保管スペースの広さ（㎡） ヘリ離発着の可否（近隣に可能場所がある場合は△）		
設備・備品	非常用電源 非常用照明 荷役機器（台数）	フォークリフト （動力区分別） ハンドリフト その他機器（自由記載）	電気 軽油 LPG
その他			
更新日			

### ■ 取組内容

- インフラ・ライフライン等の各団体・事業者と、データ提供方法や情報開示範囲などの調整、協定の締結等を通じて、災害情報をデータにより流通させ、被災・復旧状況の迅速かつ体系的な把握を目指す。



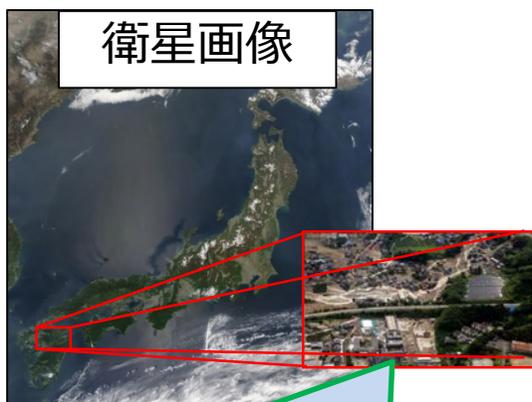
## ■取組内容

### ○宇宙技術

防災分野における取組について整理し、災害対応にあたる者のニーズと照らし合わせた上で、災害対応への利活用にもけた可能性を検討。

直近で利用できる技術については、「災害情報ハブ」の枠組みとしてデータ共有できるよう、関係省庁と連携して取組む。

## ■宇宙技術を活用した災害対応の検討



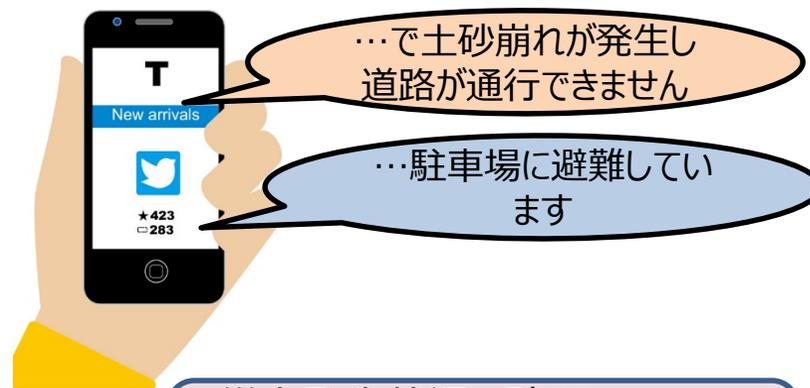
- ・河川氾濫エリアの確認
- ・通行不能箇所の把握
- ・.....

### ○SNS情報、AI

SNS情報を災害対応に利用するために、AIを活用して必要な情報だけを抽出・表示する技術については、既に実用化が進んでいる。

今後は、官民チームの試行的取組などに積極的に取り入れ、効果的な活用方策について検討する。

## ■SNS情報、AIを活用した災害対応への活用方策の検討



- ・災害発生状況の確認
- ・被災者の避難動向の把握
- ・.....